

西之内町地車新調 実行委員会通信

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（17）

久米田池の主

秋深まり、朝晩はともすれば肌寒さを感じる日もあります。西之内町の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしのことと存じます。泉州地方では、貝塚市の太鼓台、堺市の月見祭、岸和田9月祭礼が通常開催となりました。ようやく、コロナ退散の大きな一歩を乗り出したと思います。

先月号で兵主神社の蛇淵の底が、久米田池とつながっているという物語を紹介いたしました。今回は、一部関連する形でこの地域ならではの物語をご紹介します。久米田池の主（ぬし）になった娘の物語です。（以下、岸和田市ホームページより）

あちこちに匂うほの白い龍胆の花びらが、薄闇の中にとけ込もうとしていた。

「終わった……でも」
と、乙売（おとめ）はつぶやいた。

「伊那麻呂（いなまる）は、もういない……もう二度とは会えぬ……」
それからあとは、激しいおえつになっ

2022年
9月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072-444-7712



久米田寺と久米田池

た。久米田池の堤である。隆池院（りゅうちいん）の山門前から岡山の丘陵まで、ながながとつづくこの堤の完成とともに、久米田池開発工事は14年の歳月を経て、今日ようやく終わりをつけた。

勸進僧行基（ぎょうき）を中心に、山直郷・八木郷・掃守郷ほかの里人たちが汗と脂に、いや時には血にさえまみれて立ち働

いた、難行苦行の大事だった。

伊那麻呂は、掃守郷・兵主の社から差し出された年若い労役夫の一人である。

役夫たちのまかない仕度や、湯茶の接待に骨身を惜しまぬろうたけた乙売の姿を見たその日から、

―美し、女子―
伊那麻呂は、その胸をときめかし、乙売もまた

―美し、男の子―
日にやけた男々しい彼の裸形に目をやって、その頬を染めた。

だが……彼女は田治米の里長の娘。裕福な生い立ちなのに比べて伊那の家は貧しく、奴にもひとしい神人の伴だったから、この恋ははかばかしゅうは進まず、ともに燃え、人目をさけて愛しみ合う仲のままに日は過ぎた。

水田三百町歩をうるおそうとする壮大な構想のもとに拓かれたこの池は、掘さくよりむしろ堤を築いて水を堰（せ）きとめる閉塞（へいそく）工事が

主体だった。

労役夫たちは、雨の日も風の日も蟻のように群れて巨木を運び、石を曳き、土を盛りつづけた。

「痛ましや……去年の秋」
乙売は、おえつしながら血にまみれた愛しい男の面ざしを思い浮かべた。

蟬の音のかしこしい昼さがりのことだった。突如巨木の1本が崩れ落ち、数人の役夫が押しひしがれて死んだのだ。

伊那麻呂も腹を打たれてもだえ苦しみ、駆けつけた彼女の目の前で、

「乙売……乙売……」
臨終の際まで、ひたすらその名を呼びつづけた。

そして、久米田池の普請も無事完成を迎えた頃。

「永の年月苦勞をかけた。乙売よ、そなたに何ぞ褒美をとらそう」

行基はその温顔をほころばせたが、乙売の目は険しかった。工事のはじめ十三歳だった彼女は、未婚のまますでに二十七歳の齢を算えている。こわばった



兵主神社 蛇淵

口をようやく開いて、渴いた声を出した。

「離れともなや、この池と……別れともなや伊那麻呂と……」

乙売の顔は蒼白となり、熱い息を吐いたかと思える間に、たちまち蛇身

(だしん)となつて池の中へ身を躍らせた。落慶法要で老若男女の群集

する天平十年(738年)戊寅初秋、夕刻のことだった。

その後、乙売(おとめ)は久米田池の守護神となり、乙御前(おとぎぜ)と尊称された。

兵主神社の蛇淵に久米田池の主

が、忍び来るといふ伝承を、新調地車の彫物に採用しております。蛇淵と久米田池が通じているという物語を地車本体で表現するというのも過去にない試みです。

地元の伝記や歴史を地車の一部で表現し伝えることが、地域文化の継承といえるでしょう。

完成まで、あと1年を切っております。手戻りの無いように綿密な打合せを進めていく所存です。ご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

新調地車の彫り物

進捗報告

車板の仕上げ

9月に入り、木彫山本師の工房では大屋根、小屋根の車板の仕上げ作業を行っております。

今回新調する地車のこの部分については、現地車の細工を踏襲しております。小屋虹梁と車板の一体型という昭和初期の時代に作成され



車板の彫刻

鳥が羽を広げ何かを待っております

た地車では、珍しい細工であったのでは無いかと思われます。今回も小屋虹梁と車板を一枚の板を重ね合わせた一体型仕様としており、その部分にも前板、中板、奥板、カスミといった構造で、土呂幕のような感じとなっており、奥行きを感じる作品です。

しかし、構造的には衝撃による破損に対しては脆弱な構造にはなりません。その補強方法として、板の重ね合わせで補強をしているという構造です。だんじり大工さんと彫刻師の力量を感じていただけます。

地車の看板的部分については、躍動感ある雰囲気仕上げを施しております。写真はその一部で彩色前です。彫刻から場面が何であるかは想像できるとは思います。是非実物をご覧ください。ご期待ください。

新調委員の独り言

土生瀧町さんの入魂式を見学してまいりました。西之内町の入魂式の日程は、制作工程の不確定要素もあり、現段階ではお伝え出来ませんが、おおむね気候の良い時期にできればと思います。

現時点での新調地車の進捗状況は、彫刻に関しては約7割完成しており、これから完成に向けての追い込み作業に取り掛かっていきます。地車本体については、土台の組み立てからとなりますが、現在着手に向けての調整中です。装飾品に関しては順調で、たかだ呉服店さんより新しい纏が完成して納められております。

以前の新調通信などでお伝えしております通り、新調のご寄付につきましても、伝統文化の継承の観点から、少しでもご支援をいただけますようお願い申し上げます。受付、お問い合わせは、西之内町会館までお願いします。